北海道教育大学附属札幌小学校

（様式４－２：平成 29 年度　モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度
実施結果報告書）

実施結果報告書

１．学習名称：札幌市の移りかわり					
２．テーマ：小学校社会科３学年におけるモビリティマネジメント教育の実施					
３．実施教科：社会科					
４．関連単元：市の様子の移り変わり（新学習指導要領内容）					
５．実施単元数：13 時間					
６．学年	３学年	７．クラス数	２クラス	８．児童数	71 名

９．実施内容

フォーラムの分科会の主なご意見

・一般化を図ろうとしたときに、今回、この学習問題でよかったのか。
・資料としては不足している部分もあったのかなというのと、どうしても子どもたちだと予想で終始してしまう部分が少なからずあった。
・人口がふえると、どうして交通網が広がっていくのかなという理由のあたりを授業で扱っていくと、間の「だって」という理由の部分がもっと熱くなった。
・自分たちの登下校とか具体的なところでもっと出てきたら、もっとまちの広がりと交通の広がりというところが実感的に理解できた。
・交通があるから、鉄道ができたから、そこに集まるという因果関係と、人がたくさんいるところに、新しい東豊線みたいなものをつくる、そういう因果関係と、両方ある。

沢山のご意見をいただいた。本校の特色を生かし、他学級で授業改善をし、再度検証した。

前回授業との改善点

～単元構成編～

まとめていく視点は以下の３点
① 札幌市の移り変わりと人口。
②交通の移り変わり
③生活と建物の移り変わり
ワークシート（児童に配付したものは A3 判）

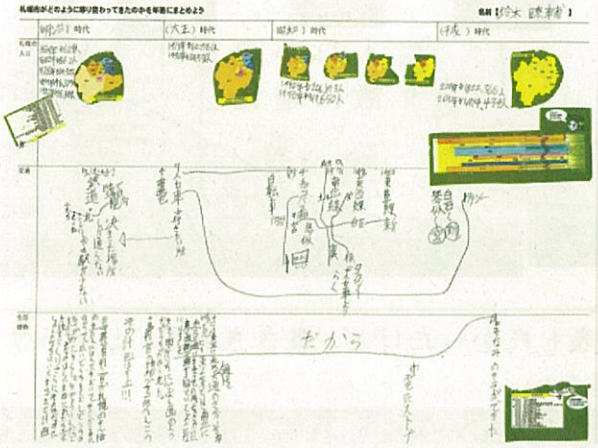
☑調べ学習後のまとめ学習を、視点ごとに１時間ずつまとめた。（下図ワークシート参照　改良 ver.札幌白地図、人口を加えた。交通に白地図（鉄道、南北線、東西線、東豊線を書き込みやすいように）を加えた。）

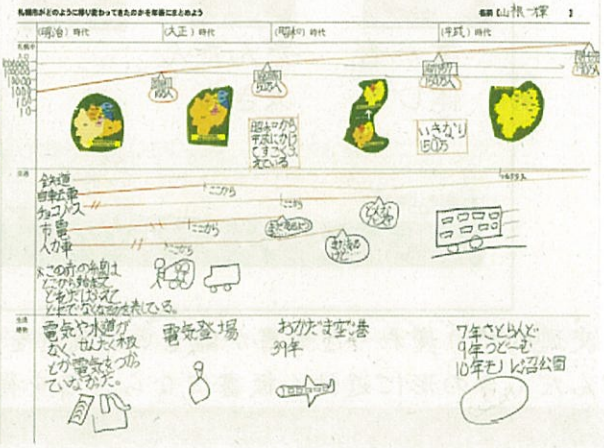
授業では、配付し貼らせることにした。

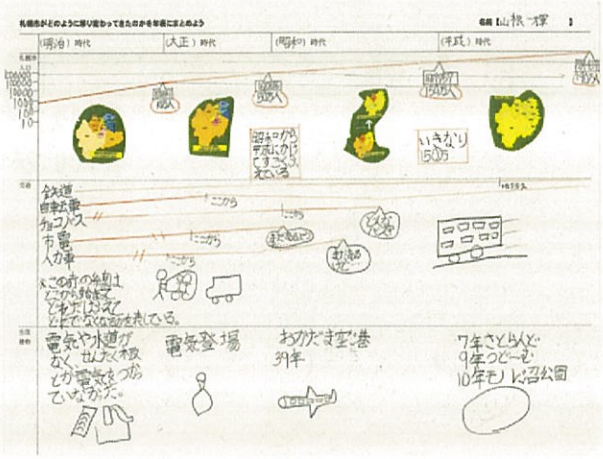
札幌市がどのように移り変わってきたのかを年表にまとめよう

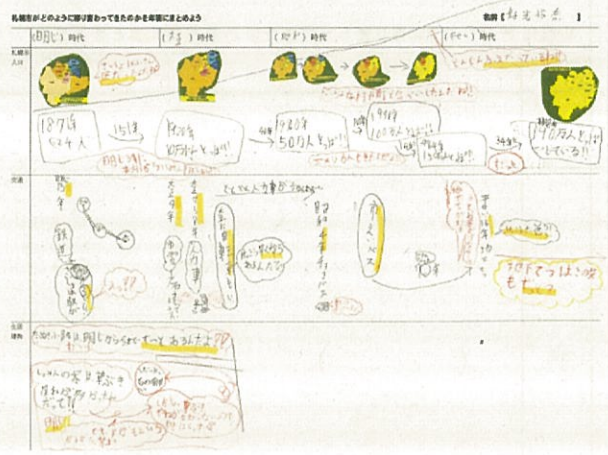
	(　　) 時代	(　　) 時代	(　　) 時代	(　　)
札幌市人口				200 万 100 万 50 万 0 万
交通	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
生活建物				

まとめのプリント









良さと課題

○どの子も、参加できる土台が揃う。

○一定程度、同じように、子どもたちがまとめられる。

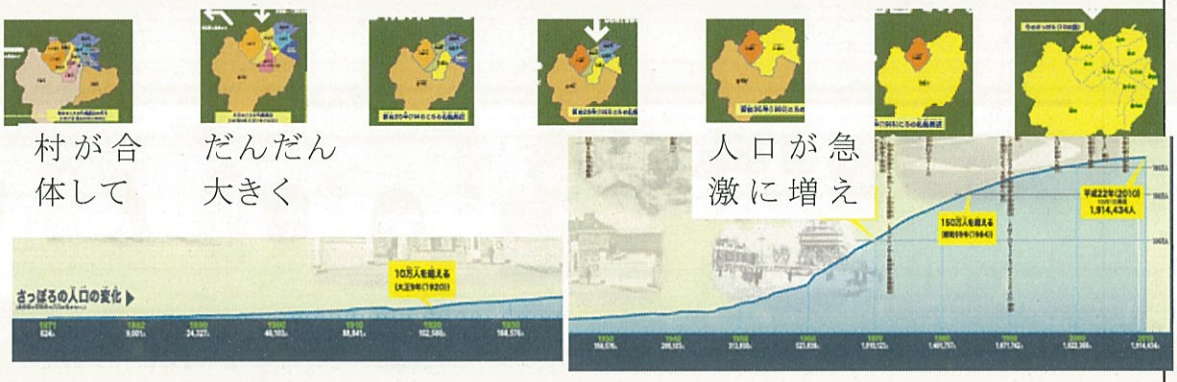
●一時間ずつまとめていく方法を取ると、「発表→板書→子どもが書く」というスタイルになるが、時間は足りない。

→一時間ずつまとめていく方が、授業は行いやすいと思われます。(板書は上手く構成できませんでした。)

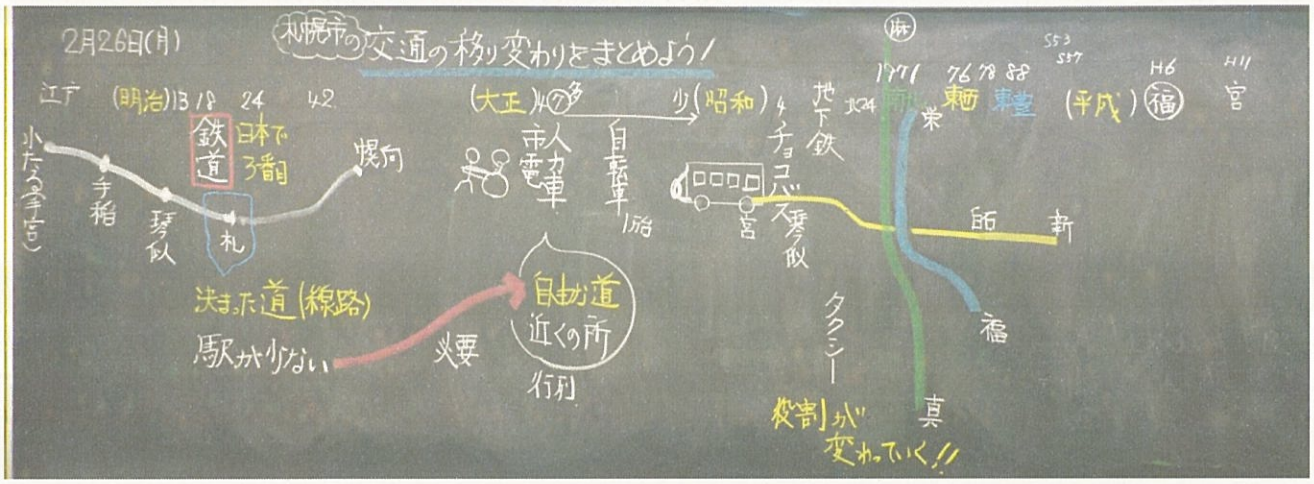
板書は、下のようなイメージ。

札幌市人口

札幌市の移り変わりをまとめよう～札幌市&人口編～



交通の移り変わり(板書が難しい)流れを表したかったけど、書ききれない。そうすると、だんだん今の形に近付く板書にならざるを得ない。



＊交通の板書に関しては、改善や検討の余地がありそうです。
代案として
・市電の歴史（順番がばらばらの路線図を、並び替える）
・鉄道の歴史（路線と、駅の増加が分かるような路線図を並び替える）
・地下鉄の歴史（路線の時系列ごとの路線図を並び替える）

板書案

札幌市の移り変わりをまとめよう～交通編～

	明治	大正	昭和	平成
市電				
鉄道				
地下鉄				

このような構成にすることで、乗り物の移り変わりと、人口の変化をとらえていけるのではないかと考える。しかし、このような構成だと要素が多すぎる。

代案の代案

□あくまでも、移り変わりなので、それぞれの交通機関の移り変わり期の路線図のみを提示し、時系列に並び変える。

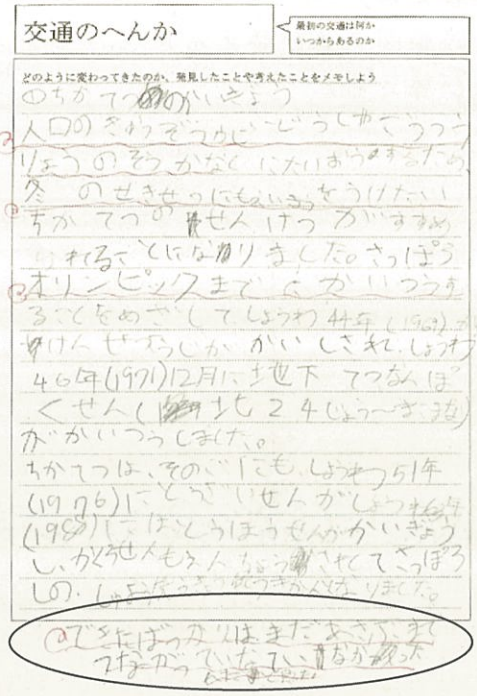
札幌市の移り変わりをまとめよう～交通編～

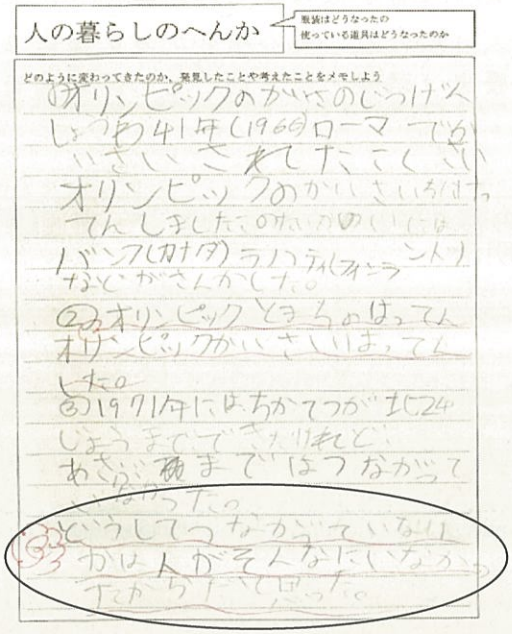
明治４３　大正５　昭和４２　昭和４９　昭和５３　昭和６１

＊ 市電 JR　市電の発達　市電全盛期　地下鉄登場　地下鉄中心に

□色々な事情により、生活と建物の変化は自習でまとめました。なので、板書はありません。

現地学習しおりより





今後に向けて～単元～

□札幌市の広がりをまとめるときの札幌市の枠があると便利。

白い枠で、札幌市だけを色付けしていけるものがあると便利。
それがあれば、年表にも位置付けられる。

□前単元の札幌市の様子との関連から、地下鉄と公共施設の関連性を学んできているので、そこと関連付けて考える子がいた。しかし、いつから建ってきたのかが不明だったため、話し合いに深まりは生まれなかった。

→公共施設が、いつ頃からどこに建って来ているのかが調べられるとよい。

→つまり、そうすることで、より人口増加との関連性や交通網との関連性を捉えられる。

□どの資料を使うかということが重要になってくる。例えば、路線図一つにしても、どの時期のものを使うのか、何枚使うのかを子どもんの実態に即して考えていかなければならない。

１０．学習のながれ：

～本時編～

☑提示資料や提示の仕方などは大きく変えてはいない。
替えた部分は、何に着目させるかというところ。今回は、人口が集中しているところの形に着目させる関わりを大切にした。

具体的な場面

「オレンジ色の分なんだと思う？」と投げかけます。様々予想を出させたあとに、正解を伝え、２枚目の資料を提示すると、子どもたちから「なんか形が変だよね。」と呟き始めるのです。そこで、教師はつぶやきを意図的に取り上げて、学級に広げる手立てを取る必要があります。

子どもの発言に寄り添って「形が変だって気持ちが分かる？」と学級に問い返します。すると子どもから、「やっぱり真ん中に集まるのは分かる。」や「山の方は人が少ないのも分かる。」と言う発言を引き出すことができるのです。つまり、地形条件や社会条件に目を向けさせるのです。

具体的なイメージまで引き出した上で、ノートに書かせるようにしたのです。

良さと課題

○本時において、札幌市の広がりを捉えるのが前回に比べ早かった。（導入のスムーズさ。）

○札幌市の広がり、人口増、交通網は既習事項になり、人口集中地域のみが未習事項になる。分かるようで分からない状況を作り出せる。半知状態。

○前回同様、人口密集地域の「形」に着目する子が多かった。「何でこんな形に？」という問いは生まれる。→交通網を提示すると、「分かった！」という子が半分位。「分からない。」が半分位。状態としてはいい状態かとは思う。

○●本時においては、どの子も同じ視点になるが、関連付ける視点の違いが生まれる。

●問いは生まれにくい。

●子どもの思考過程を考えた時、「札幌市の移り変わりを考えよう！」という課題を与え、「資料から考えられるかな？」という問いかけで始まる方がスムーズか。

＊代案（子どもの思考過程を大事にするとしたら）

昭和２５年の地図を提示後、子どもたちに、今の札幌の札幌市の白地図に人口集中地域の予想を書かせる。そうすることで、予想とのズレや一致を生む。

つまり、「おや？」（違和感）「あれ？」（不安感）「そうだよね！」（期待感）という心理状態を生む。このような状態が生まれないかぎり、問題解決にはならないのではないだろうかと思うのです。

ズレた子は「何で違うのかな？」という問いが生まれる。一致している子は「だってね…」と理由を語りたくなる状況を生む。

古い地図（黒板）と新しい地図（テレビ）を比べて発言している様子。

お忙しい中、足を運んでくださった都市交通課佐々木さん。

白石駅から、バスがたくさん出ていることを生活経験と結び付けて発言している姿。

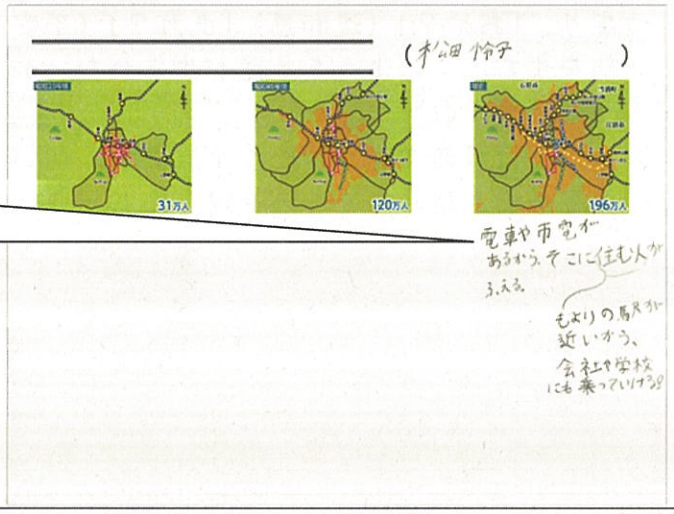
本時の板書

今後に向けて

検討事項

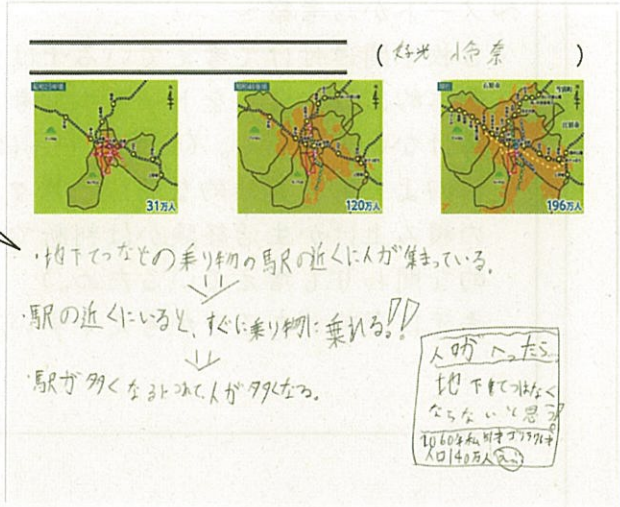
＊３枚の写真の比較は有効な手段であるかどうか。
＊移り変わりを捉えさせるのに、３枚で良いのか。
＊PPTX での提示は、もっと枚数を増やし、黒板に提示するのは最初と最後の写真にする等の工夫はできないか。

子どものノートから

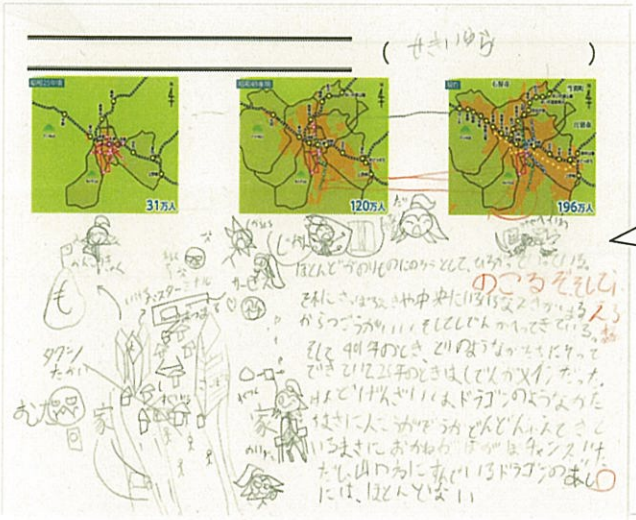


現在の様子と、具体的な様子を関連付けて考えている子。

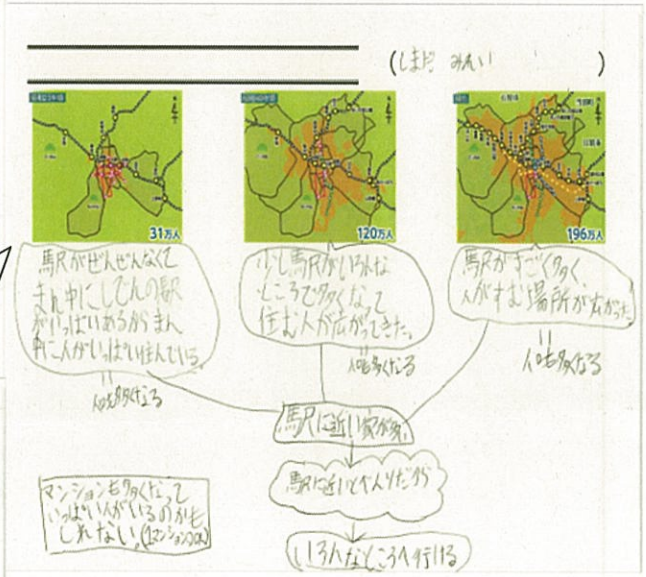
人の動きと乗りものを関連付けて考えている子。



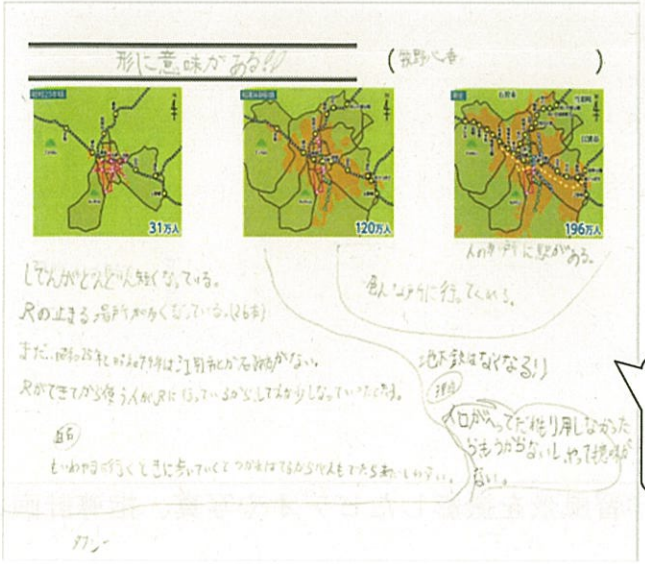
形に着目して、人の集まりと地形を関連付けて考える子。



駅の多さに着目して、人の動きやすさを関連付けている子。



交通網の発達によって、色々なところに便利にいけるようになったことを考えている子。



～ノートから考察～
・３枚を関連付けて考えている子は少ない。（６名/３５名）
・基本的には、全てをトータルで考えて比較している子が多くいる。
・書けない子もいる。（２名。やっぱりまだ難しい？）
・前回よりも、具体的な発言や様々な条件と関連付けている姿が多かったのは、単元の積み上げか生活経験かは判断できない。（授業の時期があまりにも違うため。日常的な関わりも増えているため。）
・手元に資料がある方が考えやすい。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

札幌らしい交通環境学習　指導案［社会科］

札幌らしい交通環境学習とは、「モビリティマネジメント教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としています。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっています。

※「モビリティ・マネジメント」とは、市民が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通などを含めた多様な交通手段を適度に（かしこく）利用する状態」へと少しずつ改善していく、コミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組み

実施校	北海道教育大学附属札幌小学校	実施学級	3年2組［男：16、女：19　合計35名］
実施日	2017年8月28日（月）	指導者	樋渡　剛志
科目/単元名	社会「市の様子の移り変わり」（新内容）［13時間扱い　本時9/13］		

［指導計画］

1．教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ

［小学校学習指導要領　社会編（平成29年3月公示）］

●第3学年の内容（4）

（4）市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
(ｱ) 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
(ｲ) 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ｱ) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。
（内容の取扱い）
ウ「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。

内容（4）は、現行学習指導要領の「古くから残る暮らしに関わる道具、それを使っていたころの暮らしの様子」に関する内容を改めたもので、今回の改訂で整理された3つの区分のうち「②歴史と人々の生活」に区分される内容である。また、「内容の取扱い」については、少子高齢化等による地域社会の変化に関する教育内容が見直されるなどした結果、新たに示された部分である。

これらを踏まえ、本実践では、「交通」「人口・まちの広がり」「公共施設」「生活の道具」の4つの観点の時期による違いに着目して、札幌市や人々の様子の変化を捉えられるようにすることを目指す。また、少子高齢化など札幌市全体の変化の傾向を大まかにとらえ、市の発展に関心をもち、将来ついて考えたり討論したりする。

②モビリティ・マネジメント教育の視点から

子どもたちは、通学する時に公共交通機関を利用し便利さを実感している。その一方で、自動車の方が公共交通機関に比べて移動が速かったり楽だったりすることも感じている。また、公共交通機関が生まれてから身の回りにあり、あることが当たり前だと考えている。

そのような子どもに対し、以下のような教師のかかわりを通して、まちづくりにおける公共交通機関の役割を考えるとともに、「交通」を窓口にしながら、未来の札幌について3年生の子どもなりに考える姿を目指す。

(1)観点の一つに「交通」を加え、札幌市や人々の生活の変化を捉えられるようにする。例えば、交通の発達によって人々の生活がどのように変わるか考えるよう促す。そうすることで、「速く楽に遠くに行けるようになったんだね。」のように、交通の発達が人々の生活をより便利にしていることに気付くようにする。

(2)「まちの広がり」と「公共交通機関の路線の広がり」の関連性に気付くようにする。本時では、まちの広がりが分かる3つの時期の地図に、交通の路線の広がりが分かるような地図を重ねる。そうすることで、「まちの広がりと交通の広がりは関係しているんだ」のように、それらの関連性に気付くきっかけを作る。

(3)少子高齢化など将来の札幌市が直面する課題について、交通と関連付けて考えられるようにする。本時後半では、交通の発展による利便性を捉えた子どもに、50年後の人口減少を予測したグラフを提示する。そうすることで、「お年寄りが増えていく札幌市の未来にとって、交通がますます重要になりそうだ。」という見通しを引き出す。

札幌らしい交通環境学習を推進していく上で、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場が連携をして取り組んできた。平成23年度から取り組みを行い、本実践が27本目の実践である。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も更なる連携体制を築いていく。

③資料の活用

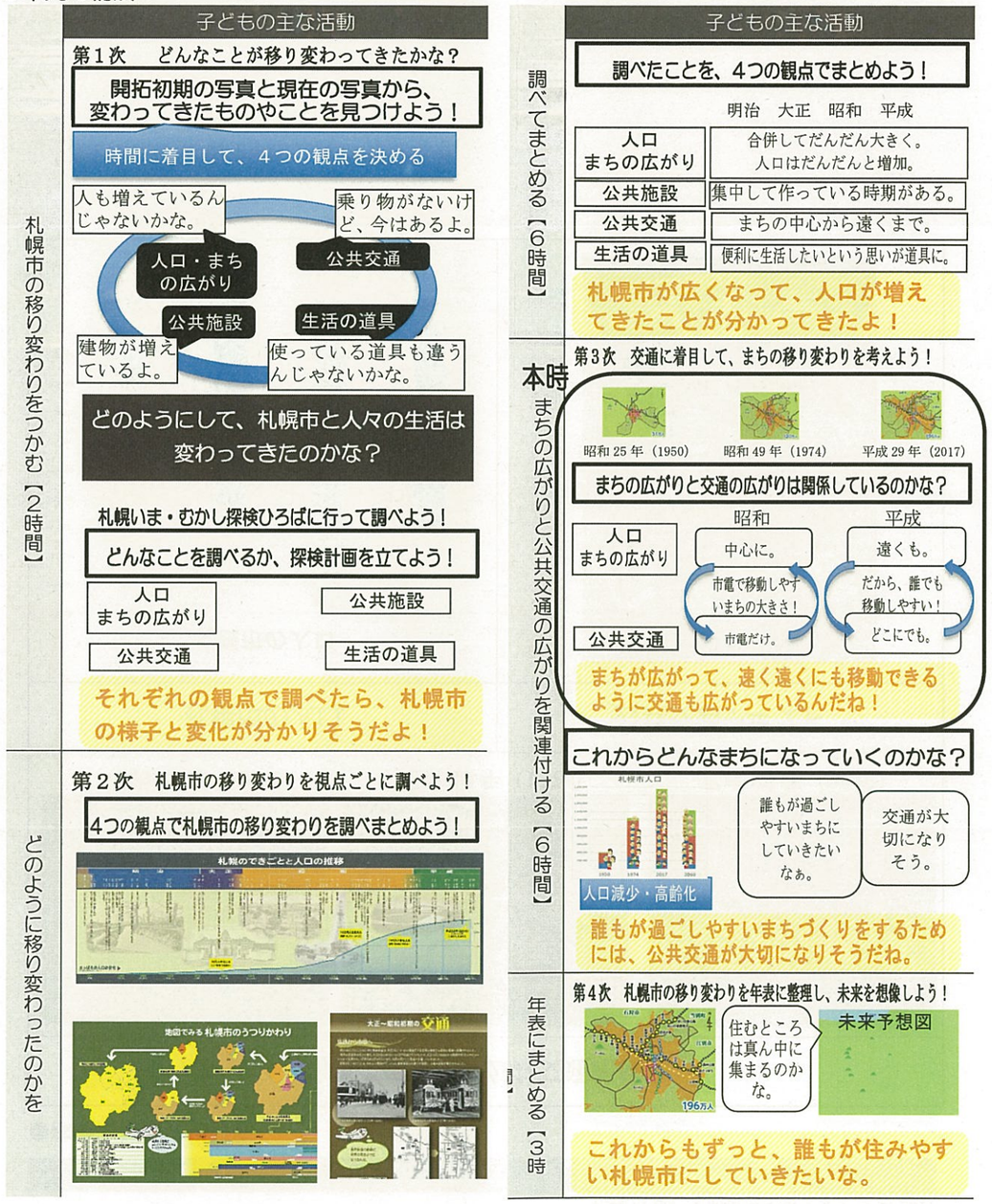
○丘珠空港「札幌いま・むかし探検ひろば」～札幌市の過去から現在の移り変わりがわかる写真・統計資料
○「まちの広がりと公共交通機関の路線の広がり」スライド　○札幌市の未来の姿が分かる統計
○札幌市のビジョン　○交通網の広がりを表す地図　○公共交通テキスト　など

2．単元にかかわって

●単元の目標

・札幌市の移り変わりを年表にまとめる活動や子ども同士の話し合いを通して、これからの札幌市の発展に関心をもち、持続可能な社会について考えようとする態度を養うようにする。
・札幌市の移り変わりを4つの観点で調べることを通して、市や人々の生活が時間の経過によってより便利に使いやすく移り変わってきていることを理解し、調べたことを年表にまとめることができるようにする。
・交通の時期による違いに着目して子ども同士が観点と観点を関連付けて話し合うことを通して、市や人々の生活の様子の移り変わりを捉え、それらの変化の理由を考え表現することができるようにする。

●単元の構成



3. 本時の目標と学習展開

●目標

・現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較（交通の時期による違いに着目）することを通して、まちの広がりと公共交通の広がりが関連付いていることを捉え、既習や調査を活用してその理由について表現する。

学　習　展　開	教師のかかわり

前時までに子どもたちは、札幌市の人口・まちの広がり、公共交通、公共施設、生活の道具の変化に着目して調べ、大まかにまとめている。

昭和 25 年（1950）

昭和 49 年（1974）

平成 29 年（2017）

まちの広がりと公共交通の広がりは、関係があるのかな？

関係がありそう！

人口・まちの広がり

昔は中心だけがまちだった。	札幌市が段々広がっていったからだよ。	中心から離れたところもまちになった。
おじいちゃんがあまり移動しなかったって。	小さいところが中心の外側にできている。	あいの里も畑だったけど、まちになった。
人口は 31 万人だよ。	人口は 120 万人だよ。	人口は 196 万人だよ。

人口が増えたから、まちが真ん中より外側に広がっているよ！

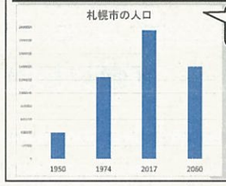
だって…

まちが小さかったから、移動しなくてよかったんだよ！	行きたいところに行けるように交通が発展していることが言えそうだよね！	車がない人でもお年寄りでも、誰もがどこにでも行けるように交通ができているんだよ！

交通

市電と鉄道だけで十分だったんだよ。	オリンピックの時に地下鉄に乗って移動したって！	人が住んでいるところに交通が必ず広がっているよ！

まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている！



これからどんなまちになってほしいかな？

札幌にも問題があったなんて思ってもいなかった。

みんなが住みやすいまちになってほしい。

交通はますます重要になってきそう。

人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？
札幌市のこれからについて、考えていきたいなぁ！

○現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較することで、まちの広がりと公共交通の広がりの関係性に目が向くようにする。

○「まちの広がりと公共交通の広がりがぴったり関係していそう」という子どもの思いに、「本当に関係しているのかな？」と投げかける。そうすることで、「関係しているよ！だってね…。」と見通しをもって取り組む姿を引き出す。

○どの視点に着目して変化を捉えているのかを子どもに問い返し明らかにすることで、まちの広がりを多面的に捉え、公共交通の広がりと関連付けて話し合う場を構成する。

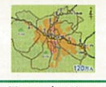
○まちの広がりと公共交通の広がりを十分に捉えてきた子どもたちに、2060 年の札幌市の人口予測を提示する。人口が、1980 年くらいにまで減る事実に着目させることで、公共交通に目が向くようにする。

○人口の減少と交通網の関係に着目させてから「これからの札幌市はどのようになっていってほしいか？」と問うことで、未来の札幌市について考える姿を引き出す。

板書計画

まちの広がりと公共交通の広がりは、関係があるのかな？

まちが広がっている！



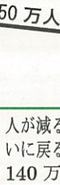
重なる。

50 万人減

みんな５２歳
先生７７歳

人口
まちの広がり

中心にまちがある。	段々広がって	離れたところも。	人が減るとまちは昔みたいに戻る？
31 万人	120 万人	196 万人	140 万人



人口が増えたから、まちが真ん中より外側に！

交通

そこまで必要じゃなかった。全部が中心にある。	行きたいところに行ける。行きたいところが遠くに。	誰もがどこにでも行ける。車のない人でも。お年寄りでも。	お年寄りも増えてくるって聞いたことがあるよ。
市電と鉄道で十分。	オリンピックの時に地下鉄に。	人が住んでいるところに交通が。	公共交通が重要になりそう。

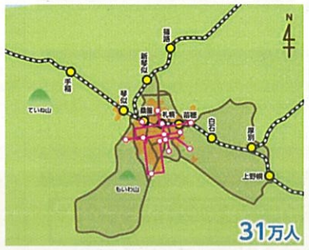
やっぱり、まちと公共交通は関係しそう？！
人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？

まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている。

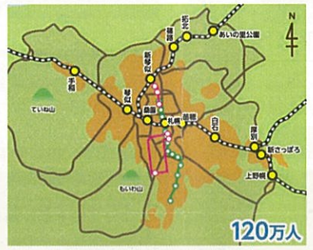
4. 本時で活用する資料

●本時で活用する資料

札幌市の市域と公共交通路線図



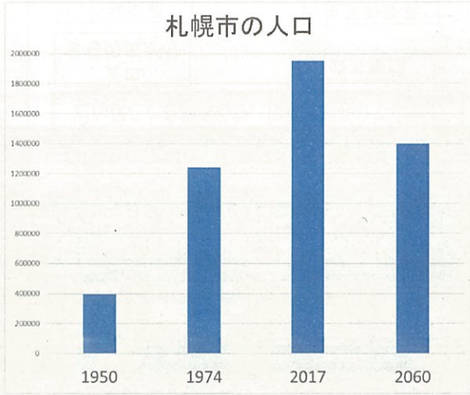
昭和 25 年（1950）



昭和 49 年（1974）

平成 29 年（2017）

札幌市の人口



公共交通テキスト